

耐震診断の結果の見方

- ① 「要緊急安全確認大規模建築物の耐震診断の結果」の「耐震診断の方法」を確認し、「附表」の中から同じ「耐震診断の方法」の欄を探します。
- ② 「評価の結果」の数値が、「附表」の「構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性」のどの部分に該当するかを確認します。
- ③ 該当する欄の上部に「安全性」の評価が記載されています。
- ④ 建築物によっては、結果の算出に使用した数値が異なっていたり、建物の場所によって評価方法が異なっていたりします。備考欄に補足説明がありますので、ご確認ください。

要緊急安全確認大規模建築物の耐震診断の結果の公表

【小学校、中学校、中等教育学校の前期課程若しくは特別支援学校】

No.	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
1	〇〇小学校	長崎市〇〇町 〇〇番地	小学校	B: (一財) 日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is/ Iso=1.05 C _{TU} ・Sp=0.69	—	—	耐震改修済み U=1.25として診断
2	□□小学校	長崎市□□町 □□番□□号	小学校	B: (一財) 日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is/ Iso=1.11 C _{TU} ・Sp=0.70	—	—	耐震改修済み U=1.25として診断
3	△△小学校	長崎市△△町 △△番△号	小学校	B: (一財) 日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is/ Iso=1.05 C _{TU} ・Sp=0.71	—	—	耐震改修済み U=1.25として診断

同じ方法の「耐震診断の方法」を探します。

「評価の結果」の数値が、附表のどの部分に当てはまるかを確認します。

この部分が「安全性」の評価※です。

附表

耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性		
	I	II	III
	大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。	大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある。	大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い。
A 建築物の耐震診断及び耐震改修の実施について技術上の指針となるべき事項 第1号に定める建築物の耐震診断の方法	Is<0.3又は α<0.5	左右以外の場合	0.6≦αかつ 1.0≦α
B (一財) 日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2001年版)	Is/ Iso<0.5又は C _{TU} ・Sp<0.15・Z・G・U	左右以外の場合	1.0 ≦Is/ Isoかつ 0.3・Z・G・U ≦C _{TU} ・Sp
C-1 (一財) 日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める	Is/ Iso<0.5又は C _{TU} ・Sp<0.125・Z・R _t ・G・U	左右以外の場合	1.0 ≦Is/ Isoかつ 0.25・Z・R _t ・G・U ≦C _{TU} ・Sp

※ 安全性の評価Ⅲは、現行耐震基準に相当するもので、これを下回ると評価Ⅱ「危険性がある」、評価Ⅰ「危険性が高い」とされますが、これらの評価区分により、大規模な地震に対する建築物の崩壊・大破が確定的となるものではなく、評価値が小さくなるに従って、被害を受ける可能性が高くなるものとされています。

<用語の説明>

「Is」: 構造体の耐震性能を表す指標 (この値が大きいほど耐震性能が高い)。

建物が保有する「強度」と「粘り強さ」、「建物形状のバランス」、「経年劣化」をそれぞれ評価し、それらを総合的に算定する。

「Iso」: Isの判定基準となる目標値。Iso=Es・Z・(Rt)・G・U

(一般的に第2次診断法及び第3次診断法の場合 Es=0.6)

「q」、「C_{TU} (C_T)・S_D」: 建物に一定の「強度(硬さ)」を確保するための指標

(この値が大きいほど耐震性能が高い)。

「Z・G・U (Z・R_t・G・U)」: Z 地域特性 (地震活動)、R_t 建築物の震動特性、G 地盤特性 (地形等)、U 建築物の用途による重要度等から目標値を補正するための指標。